

経験工学ってどういうこと？

京築県土整備事務所道路課維持係

山田 陽太

「土木工学は経験工学である」という言葉を学生時代にも土木職員になってからも耳にした。その言葉を聞いたときは、なんだかこの言葉って土木工学の本質をとらえているのかもしれない、そんなぼんやりとした考えで理解をした気になっていた。しかし、実際に土木職員をして働いてみても経験工学という言葉の実態がつかめない。経験を積まないと、一人前として働けないということなのか？それは違う気がする。そう思い、土木職員となり1年が経とうとする今経験工学について調べてみることにした。

経験工学 — 経験の蓄積と継承によって、機能性、安全性、利便性などを高めていく工学の手法。(小学館 デジタル大辞泉より)

これを見るに過去の事例や先人達の積み重ねてきたものを活用していくことであるようだ。そして、この手法によって導き出されたものの例としてN値があると分かった。私たちが日頃よく眼にするこの値もふっと湧いて出たようなものではなく、過去の研究データから算定された値である。このことにより、普段何気なく活用しているものも経験の蓄積と継承から生み出された産物であると理解したとき、私は初めて土木工学が経験工学であるということを実感した。

では、「土木工学は経験工学である」。そのことを踏まえて私はどうしていくべきかと考えたとき、まず知識の蓄積のため日々指導されたことを反芻し自分のものとする。そして、それを継承していくため他人に伝えられるようアウトプット能力を高めていく。そのような姿勢で今後業務に臨んでいきたい。これを2年目に向けての所信表明としたい。